

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油貫流ボイラーから都市ガス貫流ボイラーへの
更新プロジェクト

排出削減事業者名： 山梨罐詰株式会社

排出削減事業共同実施者名： 静岡ガス株式会社

排出削減事業共同実施者名： 株式会社三井住友銀行

その他関連事業者名： (該当なし)

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4	国内クレジット認証要件の確認	2
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3	排出削減活動期間	3
3.1	プロジェクト開始日	3
3.2	モニタリング対象期間	3
4	温室効果ガス排出削減量	3
4.1	採用した排出削減方法論の情報	3
4.2	活動量	3
4.2.1	活動量・原単位	3
4.2.2	活動量の採用根拠	3
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	3
5	モニタリング対象指標	4
6	モニタリング体制	5
6.2	モニタリング対象指標の QA/QC	5
7	排出削減量の計算	6
7.1	事業実施後排出量	6
7.2	ベースライン排出量	6
7.3	リーケージ排出量	6
7.4	温室効果ガス排出削減量	6

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	山梨罐詰株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	本社事業所
住所	静岡県静岡市清水区興津中町974番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業 共同実施者名	静岡ガス株式会社
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業 共同実施者名	株式会社三井住友銀行

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

A 重油貫流ボイラーから都市ガス貫流ボイラーへの更新プロジェクト

2.2 排出削減事業の目的

当社が使用している A 重油貫流ボイラー 5 台のうち、2 台を高効率の都市ガス貫流ボイラーへ更新する。ボイラーの高効率化による燃料使用量の削減及び低炭素燃料へのエネルギー転換によって、CO2 排出量を削減する

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

現在使用している貫流ボイラーは、経年劣化によりボイラー効率が悪化しているため、これを新しい貫流ボイラーへ更新することで燃料使用量を削減し、CO2 排出量を削減する。また、都市ガスは A 重油よりも単位発熱量あたりの炭素含有量が少ないため、ボイラーの燃料を都市ガスに転換することにより CO2 排出量を削減する。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

(個別項目の欄において具体的に記載すること。)

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載。

2008年9月16日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2008年9月16日 ～2009年3月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

4.2.1 活動量・原単位

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲 (バウンダリー)

5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合、) 変更理由
$F_{\text{fuel,Pj}}$	都市ガス使用量	N m^3	No.1 ボイラー 208.3 千 N m^3 No.2 ボイラー 105 千 N m^3	No.1、No.2 ボイラー各々の管理 用ガスメータの数値を記録	N/A
$HV_{\text{fuel,Pj}}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/千 N m^3	45.0	ガス会社の公表値 (高位発熱量) 「一般ガス供給約款」	N/A
ϵ_{Pj}	燃料転換後ボイラー効率	%	No.1 ボイラー 86.5% No.2 ボイラー 86.8% (高位発熱量)	ボイラー会社である三浦工業 が年 2 回実施する定期点検 時に報告するボイラー効率 の年間単純平均値	N/A
$CF_{\text{fuel,BL}}$	A 重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数	tC/GJ	0.0189 (=0.7911t-C/ 4.18605GJ×10)	デフォルト値	N/A
$CF_{\text{fuel,Pj}}$	都市ガスの単位発熱量あたりの炭素排出係数	tC/GJ	0.0138 (=0.5785t-C/ 4.18605GJ×10)	デフォルト値	N/A

6 モニタリング体制

排出削減事業計画 7.2 参照

6.2 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類	QA/QC 手順（該当手順の無い場合、その理由を記載すること）
活動量	
都市ガス使用量	ボイラーメーカーである三浦工業がNo.1、No.2 ボイラー各々の管理用ガスメータからの通信データをまとめ担当者へ報告し、担当者は記録ファイリングする。
燃料転換後ボイラー効率	ボイラーメーカーである三浦工業が年 2 回実施する定期点検時のボイラー効率報告書を担当者がファイリングする。
単位発熱量	
都市ガスの単位発熱量	ガス会社の一般ガス供給約款を担当者がファイリングする。発熱量に変更があった場合は、改定された約款を保管する。
排出係数	
A 重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数	方法論のデフォルト値に変更がないか確認する。
都市ガスの単位発熱量あたりの炭素排出係数	方法論のデフォルト値に変更がないか確認する。

7 排出削減量の計算

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
No.1 ボイラー 1 0 8 . 3 千 N m ³	4 5 GJ/千 N m ³ (高位発熱量)	0 . 0 1 3 8 tC/GJ	2 4 7 tCO2
No.2 ボイラー 1 0 5 千 N m ³	4 5 GJ/千 N m ³ (高位発熱量)	0 . 0 1 3 8 tC/GJ	2 3 9 tCO2
EMPj			4 8 6 tCO2

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
No.1 ボイラー 1 2 9 , 1 3 0 L	0 . 0 3 9 1 GJ/L	0 . 0 1 8 9 tC/GJ	3 5 0 tCO2
No.2 ボイラー 1 4 0 , 4 3 5 L	0 . 0 3 9 1 GJ/L	0 . 0 1 8 9 tC/GJ	3 8 1 tCO2
EMBL			7 3 1 tCO2

7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0 tCO2

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	<i>EMBL</i>	7 3 1 tCO2
事業実施後排出量 (7.1)	<i>EMPj</i>	4 8 6 tCO2
リークージ排出量 (7.3)	<i>LE</i>	0 tCO2
温室効果ガス排出削減量	<i>ER</i>	2 4 5 tCO2